

開倫塾ニュース 12月号御送付の御案内

大不況下の生き方を考える

- 現状をしっかりと見すえた上で、自分自身の手で未来を切り開こう -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：今月号の巻頭言はすごいテーマですね。小・中・高校生も大不況のことは知っておいたほうがよいのですか。

A：(1)小学校低学年はともかくとして、世の中の動きがどうなっているのかを、小学校中学年、つまり3～4年生からは少しずつ「理解」するようにしたほうがよいと私は考えます。

(2)小学校5～6年生は社会のしくみを勉強しますし、中学生になれば世の中のことも大分(だいぶ)わかってきますので、日本の状況・世界の状況がどうなっているかを知った上で、自分自身の将来を考えること、現在何をしなければならないかを考えることが求められるのではないかと私は考えます。

(3)まして、高校生や大学生、社会人は、自分の将来に直接関係あることとして、日本や世界の株式相場の状況や為替(かわせ)の状況を真剣に認識したほうがよいと思います。

(4)株価が大幅に下がり続け回復しなければ、また、円高がすすみ円相場がなかなか元に戻らなければ、企業の業績は落ち込む。つまり、売上げや利益は減り、そこで働く人も今までの待遇を維持できなくなったり、職場を失う人も出てくる。家庭のやりくりは少しずつ苦しくなり、就職することも少しずつ難しくなる。このようなことは、新聞やTV、ラジオなどでも少しずつ解説されるようになったので、多くの方々にとっても容易に想像できるようになりました。

Q：大不況の時期をどう過ごすか。難しそうですね。

A：(1)厳しい現実だからといって目を背(そむ)けては、問題は一つも解決しません。大人は大人で、子どもは子どもで、自分のなすべきことを確実にし続ける以外に生きる道はないと考えます。どのような厳しい状況が目の前に現れても、冷静に現実を受け止めていただき、気持ちをしっかりと持っていただきたいと思います。

(2)私は、「目的」をしっかり持って「学び続ける」ことを、保護者の皆様は塾生の皆様には是非おすすめいただきたいと思います。今、学ばなければならないことをしっかりと学んでおく。これが児童・生徒・学生の本分(本来やらなければならないこと)であると、私は考えるからです。そのためには、「目的」が必要です。何のために学ぶのか。目的さえはっきりすれば、どんな勉強も苦ではありません。学校や開倫塾で学べるのが、自分にとって有難いことだと考えることができます。人間は「志(こころざし)」、つまり自分の理想とする姿を実現するために生きるものだとは私は考えます。ただ現実には、どのように「高い志」を持ったらよいか、自分の理想とする生き方をしたらよいかがよくわからない人が多いと思われれます。そこで私は、

「伝記」を腰を落ち着けてゆっくり読むことと、「新聞」をじっくり考えながら毎日読み続けることをおすすめします。「伝記」によって、「高い志」とは何かを知ることができます。何年も、何十年も苦勞をしながら人生の目的、高い志を目指した人の生き様を知ることができます。「新聞」を毎日考えながら読み続けることで、現代社会の抱える問題が少しずつはっきりとわかってきます。激しく動き続ける世の中の様子とその原因、どうしたらよいかを知ることができます。

「伝記」と「新聞」で、学ぶ「目的」、生きる「目的」が自分なりに少しずつ見えてくると私は考えます。

(3) 御家庭や職場でも、今やらなければならないことは何かを、あまり感情的にならずに冷静にお考えいただきたく希望いたします。一番よいのは、家でおとりになっている新聞を丹念に読んだり、ニュースの解説を聞いたりして、各自が自分なりにお考えをまとめた上で、家族でこれからどうしたらよいかを真剣に話し合うことだと考えます。

(4) 個人の所得や企業の業績が悪化し始めれば、国や地方の税金が少しずつ減ります。今までと同じような行政サービスや福祉のサービスを受け続けることは、少しずつですが難しくなってきます。このことも容易に想像できます。では、どうしたらよいのかを自分の頭で考え、自分の責任で行動する以外にありません。

(5) 私は、10月7日と14日に、宇都宮大学工学部の3年生約140名に「経営工学序論」の講義をさせていただきました。(私は昨年度より、宇都宮大学大学院工学研究科の客員教授を務めさせていただいております。)宇都宮大学工学部の学生には、「このような経済状況の時にこそ、学生の本分とは何か、今やらなくてはならないことを自分の頭で真剣に考えて、大学生としての毎日の生活、つまり勉強を大事にして欲しい」とお願いしました。

(6) また、私は、10月18日と24日のCRTラジオ栃木放送「開倫塾の時間」の番組の中で、「開倫塾ニュース 12月号の巻頭言」の内容をお話させていただきました。更に、私は、10月20日に社団法人経済同友会(東京)からの派遣講師として東京都墨田区立文花中学校3年生の授業を担当させていただいた際も、この巻頭言を紹介した上で、不況期の生き方、学び方をお話させていただきました。その内容は、この塾長通信の後半でご紹介させていただきますので、是非ご覧下さい。

(7) 皆様には是非お願いしたいことは、保護者の皆様も、新聞を毎日なめるようによく読み、TVやラジオなどの解説をよくお聞きになって、この大不況下にこれからどのように生きていったらよいかをまずは御自身で十分お考えになっていただきたい。その上で、どうしたらよいのかをお子様にもよく「理解」していただくために、御家庭で十分お話し合いになっていただきたいということです。今こそ、家庭教育が大切だと私は考えます。

(8) 私は、平成16年より栃木県社会教育委員を拝命し、これからの社会教育のあり方を栃木県教育長に提言させていただいております。家庭教育のあり方についても随分議論いたしましたが、これからの家庭教育として、大不況下にどのように生きたらよいかをまずは保護者の皆様がお十分お考えになった上で、お子様にもご自分のお考えを十分お伝えになることだと私は考えます。

Q：11月から来年3月にかけて、したほうがよいことは何ですか。

A：受験学年の塾生の皆様は、朝から晩まで、文字通り「眠る時間以外は机に向かう」くらいの熱心さで学び続けることです。

偏差値アップのポイントは3つ。

- (1)開倫塾のテキストや問題集などを、開倫塾の授業や講習会を通して、まずは「理解」すること。
辞書をいつも身近において、勉強していてよくわからない語句に出合ったら徹底的に調べること。
学校の教科書や参考書もいつも身近において、一度勉強したことでもよくわからない内容は、焦ることなくわかるまで何回でもゆっくり読み直すこと。勉強していてわからないことは、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問すること。このようにして、わからないことは一つもないようにすること。
- (2)学校や開倫塾で一度学んだことを、必ずもう一度勉強し直すこと。もう一度勉強しながら、学んだことを一つ残らず身に付けられるよう努力すること。
声を出して何十回も読む「音読練習」

不要な紙に何回も何十回も行う「書き取り練習」

一度なぜそのような答えになるかがよくわかった問題を、何回も繰り返してやり直し、問題を見た瞬間に条件反射でパッと正解が出るまでにする「計算・問題練習」

*この3つの練習を、一度「うなるほど」と「理解」したことを確実に身に付ける、つまり「定着」のための「3大練習」と私は呼んでいます。

「理解」と「定着のための3大練習」で、偏差値は飛躍的にアップします。なぜ偏差値が急激にアップしないかといえば、「理解」と「定着」が不足しているからです。最後は、「応用」力をつけることです。

- (3)以上の(1)の「理解」と(2)の「定着」に励みながら、予想問題や模擬試験の問題、過去に出題された問題を何回もやること。これが「応用」です。

*全県的な規模で実施され偏差値の出る「模擬試験」で偏差値を確実に上げる一番よい方法は、その時期に、過去に出題された5年分の問題を繰り返し2度～3度やり直すことです。これに加えて、入学試験で合格を確実にする一番よい方法は、自分が受験する学校の入学試験で過去5年間に出版された問題を、繰り返し3～5回やり直すことです。

「模擬試験」も「入学試験」も、過去に出題された問題を3～5年分やる。やり終えた各年度の問題を最低でももう1回、できれば5回以上やり直す。これが、成績のよい受験生が皆やっている「応用」力を確実に身に付ける勉強方法です。

- (4)「いくら努力しても報(むく)われぬ」とよく言われますが、こと受験勉強に限って言えば、以上の(1)の「理解」、(2)の「定着」、(3)の「応用」を丁寧(ていねい)に行えば、努力は必ず報われます。偏差値も上昇しますし、入学試験にも合格します。ただし、勉強の方法を知っていても、知っているだけで実際にやらなければ結果は出ません。

Q：では、受験生はどのくらい勉強すればよいのですか。

A：極端な言い方をすれば、眠る時間(7～8時間)や食事、風呂、トイレ、身仕度(みじたく)など生活に最低限必要な時間、学校の登下校や授業などで学校にいる時間以外は勉強し続けるくらいの熱心さで、勉強したらよいのではないかと私は考えます。

家で勉強できない人で、学校が終わってから夜 10 時半直前まで開倫塾の空いている机と椅子を使って勉強することを許された人は、開倫塾で勉強して下さい。

大切なことは、何のために受験勉強をして高校や大学に進学するのか。高校や大学に進学して何をするのか、何を学ぶのか。高校や大学を卒業後、どのような人生を歩みたいのか。何のために生きるのか。自分にとっての人生の目的とは何か。「志(こころざし)」とは何か。理想の生き方とは何か。これらを真剣に考えることです。

人生の目的や上級学校で学ぶ目的がはっきりすれば、受験勉強に「ターボエンジン」がついたと同じで、どんなにつらい勉強も「苦」になりません。むしろ「喜び」となります。

「伝記」や「新聞」をよく読んで、人生の目的、勉強する目的を少しずつでも探し求めて下さいね。

Q：来年受験のない学年、つまり非受験学年の塾生はどうしたらよいのですか。

A：中学生はどこの高校、高校生はどこの大学に進学するのかわきだけは、1 日も早く決めて下さい。漠然(ばくぜん)と勉強するのではなく、中学 1 年生、2 年生も、高校 1 年生、2 年生も、進学したい高校や大学をはっきり決めること。1 日も早く決めることです。受験まで 1 年以上ありますから、よほど難しい大学を除いて、今からならどの学校も合格は可能です。

1 年間ありますので、11 月から受験生とほぼ同じくらい机に向かい勉強すれば、誰でも偏差値は 15～20 は上昇します。偏差値が上がれば、合格できる学校がどんどん増えます。学校の選択肢(せんたくし)がどんどん増えます。自分の人生を自分の力で切り開く第一歩は、中 1 生、中 2 生、高 1 生、高 2 生でも 1 日も早く入学したい学校を決めて、その学校に合格できるだけの偏差値を自分の力で 1 日も早く確保することです。

「努力は必ず報(むく)われる」のが、受験勉強です。来年の 1 月から 3 月までに受験のない非受験学年の皆様、特に、中 2 生、高 2 生の皆様は、この秋から冬、11 月、12 月、1 月、2 月、3 月の 5 か月間にどれだけ本気になるかで、1 年後の結果が決まります。

Q：非受験学年は、何をどのように勉強したらよいのですか。

A：受験学年の受験勉強といっても、3 分の 2 は中 1 や中 2、高 1 や高 2 の勉強です。そこで、大切なことは、今の学年のところまでの勉強を学年が終わる 3 月末までに完全にやり終えておくことです。

学校の教科書にプラスして、開倫塾のテキストをスミからスミまでとりあえず 1 回はやり終えること。1 回やり終えた人は、もう 1 回やり直す。どんなことがあっても、学校の教科書と開倫塾のテキストは最低 2 回はやり直す。

志の高い人、元気な人は、3～5 回やり直すとほぼすべて身に付きますので、3 年生になって 1～2 年生の復習をしないですみ、3 年生の勉強に専念できます。1～2 年生の内容でもレベルの高い応用問題に挑戦できます。1～2 年の学校の教科書と開倫塾のテキストをスミからスミまで「理解」した上で、「3 大練習」で覚え切ること。何回も申し上げて恐縮ですが、誰でも必ず成功する方法ですので是非実行して下さい。

家で勉強できない人は、中 3、高 3 の受験生と同じように、11 月から 3 月までの 5 か月間、校長の許可を得た上で、学校が終わってから夜 10 時半直前まで開倫塾の空いている机と椅子を使って自習して下さい。ただし、おしゃべりは絶対禁止です。開倫塾は遊び場ではありません。

御参考

次の文章は、社団法人経済同友会(東京)からの派遣講師として、10月20日(月)に東京都墨田区立文花中学校3年生に50分間出張授業した際の講義資料です。この「開倫塾ニュース12月号の巻頭言」も参考までに示してあります。御家庭の皆様全員で是非御一読なさり、「大不況下の生き方」を皆様でお考えいただく際の資料にさせていただければ幸いです。

中学生に望むこと

- 志(こころざし)高く生きよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

お読みになりやすいように、QandAの形で書かせていただきます。

Q：よろしくお願ひいたします。自己紹介をお願いします。

A：(林明夫：以下省略)経済同友会から本日の出張授業の講師として派遣された林明夫(はやしあきお)です。どうかよろしくお願ひします。まずは、次の文章をお読み下さい。

大不況期の過ごし方を考える

- 現状をしっかりと見すえた上で、自分自身の手で未来を切り開こう -

Q：日本を含め世界中で大不況のようですね。

A：(林明夫：以下省略)その通りです。1929年からの世界大恐慌のようにならないように、日本や世界のリーダーたちが立ち上がり、各国が力を合わせながら、各々国としてできる最大限の努力をしています。

Q：このような大不況の時期は、どのように過ごしたらよいとお考えですか。

A：まずは、現状をしっかりと見すえることが大事と考えます。各国の歴史や世界史の教科書に必ず載るような出来事が、何週間か前から発生しています。新聞を毎日一面からしっかりと読んで、日本や世界で何が起きているのか、日本や世界のリーダーたちは、それにどう対応しようとしているのかを「理解」して下さい。「新聞を読んで自分の力で考える」ことが、今ほど大切な時期はありません。

Q：日本や世界の現状を「理解」した上で、何をしたらよいのでしょうか。

A：大不況という時代に合った生き方をする以外にありません。大不況という時代は、お金がどんどん出ていく割にはお金が入ってこない、つまり「金まわり」が極端に悪くなる時代です。そのような時代に、自分で自分の身を守るために一番よいのは、「もったいない」の生き方に徹することであると私は思います。ものを大切に大切にすること。お金は大切に使うこと。今やっていることを大切に、まじめにしっかりと行うことが大切です。

Q：例えば、どのようなことですか。

A：(1)今、学校で学んでいる人は、この大不況の時期に「学校で学ぶことができること」を大切に考えて、今、学んでいることを学校にいる間にしっかりと身に付けることです。

「ノート」や「筆記用具」は最後まで使い切る。「教科書」や「参考書」はスミからスミまでしっかりと「理解」した上で「覚え切る」。教室など学校の施設や自宅の自分で使う部屋を整理整頓(せいりせんとな)し、いつまでも使えるようにする。

(2)食べ物は、自分で食べられるだけ食器に取り、ゆっくりとかみしめながら食べ、残さないようにする。

(3)病気がある場合は、どんどんお医者さんに診てもらい、全力を傾けてできるだけ早く治すようにする。病気とは真正面から闘う。できるだけ病気にならないように、最大限気をつける。(外から帰ったら、薬用石けんで手のくるぶしまで2回洗い、うがいを何回もすることで、病気にならないようにする。食後の歯みがきは、おっくうがらないで毎食後確実にを行う。歯科医院に定期的に行き、虫歯をつくらない。etc.)

Q：随分(ずいぶん)基本的なことですね。

A：この大不況は、これから何年間か、日本だけでなく世界中で続くと思われます。学校を卒業した人が仕事に就くことが難しい、今仕事に就いている人が仕事を失うことも多くなる時代に入っていき可能性が極めて高い時代に、日本だけでなく世界中が入っていくとも思われます。

ですから、学校で学ぶ皆様も含めて、この世の中で生きている人は一人残らず、新聞を考えながら読むことで、今世の中で起こっている現実を冷静にきちんと認識した上で毎日の生活をしっかり見つめ、一步一步着実に、今やれることを確実にやり抜くことが求められると考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：このような時こそ、「何のために自分は生きるのか」、「どのような生き方を自分はしたいのか」、「何のために上級学校に進学するのか」、「そのためには今何をしなければならないのか」などの一見難しいと思われることを、腰を落ち着けて深く考えることが大事かと思います。

人間の歴史の上で、今日(こんにち)ほど物があふれ、お金や情報が行き交う時代はありません。今でも、明日食べる物がなく生活に困っている人々は何十億人もいます。日本にもそのような方はたくさんいます。たとえ小学生、中学生、高校生であろうと、日本や世界の現実を自分なりに直視し、自分の生き方を自分の力で決め、自分の責任で生き抜く時代に入ったと私は考えます。

一番大切なのは、「高い志(こころざし)」です。自分に与えられた社会的使命(mission、ミッション)とは何かを自覚して、一生を生き貫くこと。「一所懸命」に「一つの所で命を懸けるくらい熱心」に、勉強に、仕事に、社会活動に、また、よい家庭をつくる・よい地域社会をつくるために、一人ひとりがその人なりに努力をする。このような生き方が求められるのが、既に迎えてしまった大不況の時代であると私は考えます。

皆様は、どのようにお考えになりますか。

御参考までに

(1)「読書の秋」です。このような時代にこそ、人々は困難な時代をどのように乗り切ったかを知るために、日本や世界の人々の「伝記」をじっくりと読むことをおすすめします。

一番のおすすめは、幕末から明治維新を生き抜いた福沢諭吉の「福翁自伝(ふくおうじでん)」です。シュリーマンの「古代への情熱」も、何のために生きるのかを考える上でとても参考になります。「伝記」を読んで興味がわいてきたら、その当時の歴史や地理などを調べてみると、よい勉強になります。

(2)この秋に皆様の前で起こっている世界恐慌発生寸前の大不況や、世界中がスクラムを組んでそうならないように取り組んでいることは、何十年後かに日本史や世界史の教科書に必ず載るような内容です。そのような日本や世界の歴史の上で重要な出来事のまっただ中に、今我々は暮らしていることを考え、新聞だけは毎日一面からじっくりなめるようにお読みになることを、また、大切と思われる記事は切り抜き、スクラップブックに貼り付けておくことをおすすめします。

Q：前のページの文章は何ですか。

A：この文章の前半は、私が21年間担当しているCRTラジオ栃木放送「開倫塾の時間」10月18日と10月24日午前9時15分～25分放送の内容です。11月1日発行の「開倫塾ニュース(毎月1回、1日発行)」の「巻頭言」の内容でもあります。

この放送は、栃木県内全域はもちろん、群馬県東部、茨城県西部でもお聴きいただけます。(周波数は1530kHz、1062kHz、864kHzです。)開倫塾の塾生・保護者の皆様を中心に地域社会の皆様にお聴きいただくために、毎月1回放送局で録音していただき、放送しているものです。是非お聴き下さい。

Q：林さんは、この文章で何が言いたいのですか。

A：東京都墨田区立文花中学校から中学3年生の皆様にお話するように私に与えられた今日のテーマは、「中学生に望むこと」です。中学生に何を望むのかの私の答えが、この文章でもあります。

今、日本や世界で何が起きているのかを正確に「理解」し、どうしたらよいかを自分のこととして考え、自分の責任で行動するために、中学3年生の皆様はまずはしっかりと新聞を毎日一面からなめるようによく読み、考えていただきたいということです。

世界の多くの国々では貧困に苦しんでいるのに、8割もの方が大学などの「高等教育機関」に進学できるこの日本という国は本当に素晴らしい国だと私は考えます。苦しいこともあるかもしれませんが、そのような学ぶ機会(チャンス)のある日本に皆様は生活しているのですから、そのチャンスを最大限に活用して下さい。

高校でよい成績を取り続けられれば、大学等に進学するときに奨学金を活用できる機会(チャンス)が生まれます。大学等でよい成績を取り続けられれば、「大学院」に進学するときに奨学金を活用できる機会(チャンス)が生まれます。

*現代社会は、知識が基盤となった社会(知識基盤社会)ですので、仕事や社会的な活動をするには高度な専門的な知識・技能が求められます。大学等だけでは不十分なため、その上の「大学院」での教育や研究が必要な場合が激増しています。一度社会に出てからも、大学や大学院に何回も入り直し、一生かけて学び続けることが求められるのが現代社会であると、私は考えます。

Q：今、中学生なので、高校のことは少しは考えていますが、その先の大学や大学院のことまで考えたことはあまりありませんでした。考えたほうがよいのですか。

A：自分は何のために生きるのか、どのような仕事や社会活動がしたいのか、どのような生き方がしたいのかを考えれば、当然そのためには現代社会ではどのようなことを学ばなければならないのか、身に付けなければならないのかがわかってきます。

まして、世界で最も物価、生活費の高いといわれる東京の中心部で生活するためには、相当の収入を自分の力で確保し続けなければなりませんので、ある一定以上のレベルの仕事をしなければなりません。そのためには、「自己責任」「自助努力」で高校、大学、できれば大学院とより高度な内容を学び続ける以外にありません。

Q：高校入試が目前に迫っていますので、そのような難しいことは考えられません。

A：確かにそうかもしれませんね。しかし、ものごとは考えようで、高校入試のための受験勉強をもっと積極的に行うことも大切です。「高校入試の勉強は、義務教育 9 年間の総まとめとして行う」。また、十分「理解」していなかったことを「理解」する、十分「定着」していなかったこと、つまり身に付いていなかったことを、高校入試の勉強を通して自分の将来のためにしっかり身に付ける。単に合格すればよいというだけでなく、このようにより積極的に高校入試を考えたらよいと私は思います。

Q：「自己責任」「自助努力」とは何ですか。

A：「自己責任」とは、自分の行動には自分で責任をもつということです。「自助努力」とは、自分の身は自分で助ける努力をすることです。英語で self-help(セルフ・ヘルプ)といいます。

私が中学 3 年生の皆様に見ることは、これから先は、死ぬまで、「自己責任」「自助努力」を基本にしながらかきたほうがよいのではないかとことです。

Q：とりあえずどうしたらよいのですか。

A：皆様の多くは、あと何か月か先に高校入試を受験すると思います。

ところで、小学校での教育を「初等教育」といいます。世界には、小学校での「初等教育」が受けられない人々がたくさんいます。中学校や高校での教育を「中等教育」といいますが、中等教育を受けられない人々はさらに多くいます。

皆様の多くは、中等教育の後半、難しいことばでいうと「後期中等教育」である「高等学校」での教育を受けられる機会(チャンス)がおありになるのですから、中学校での勉強を十分した上で、高校へ進学して立派に勉強していただきたいと希望します。

また、日本では、高校を卒業した人の 8 割弱が大学・短期大学・専門学校などの「高等教育機関」に進学なさる機会(チャンス)に恵まれています。このような機会(チャンス)に恵まれた皆様は、高校に行ったらどのようなことを学ぶのかも、受験勉強をしながらいつも考えておくことをおすすめします。「私はこのような生き方をしたい、だから高校に行ってこのようなことを学びたい」と、受験勉強をしながらいつも考え、しっかりとした考えをもって高校に進学なさることが大切です。どうか「志(こころざし)」を高くもっていただきたい。大変な経済状況であればあるほど、「高い志」をもった生き方を中学生のうちからすることを望みます。

Q：具体的には、どのような勉強をしたらよいとお考えですか。

A：(1)小学校、中学校、高校の教科書に出ているくらいの内容は、世の中に出て最低限必要です。小学校、中学校、高校など学校で学ぶ内容は、すべて世の中に出て役に立ちます。役に立たないことは一つもありません。ですから、学校の授業をまじめに受けて「スミからスミまで」完全に「うんなるほど」と「理解」して下さい。よくわからないところがあれば、遠慮しないで先生に質問して下さいね。

よくわかった「理解」した内容については、声を出して読む練習つまり「音読練習」、何回も何回も紙に書いて覚える練習つまり「書き取り練習」、同じ問題を何回もやり、パッパッと答えが出るまでにする「計算・問題練習」の「3大練習」を徹底的にやして下さい。

(2)教科の勉強以外の学校での活動も、すべて社会に出てから役に立ちます。「部活動」、「クラブ活動」、「学級会活動」、「班活動」、「当番」、「掃除」、「生徒会活動」、「給食」、「運動会」、「文化祭」、「自然体験学習」、「修学旅行」、「芸術鑑賞」、「全校集会」、「始業式」、「終業式」、「卒業式」、「開校記念日」など様々な学校行事は、すべて社会に出て役に立ちます。

(3)一番役に立つのは、学校を「欠席」しないこと、「遅刻」しないこと、「早退」しないこと、「トイレ掃除(そうじ)」当番です。授業中は手を机の上に置き、先生の目を見てしっかり授業を受けること、必要なことはノート(メモ)を取り続けること。授業中のテキストや「ノート(メモ)」を授業後何回も何回も読み直し、スミからスミまで身に付けること。授業中は、おしゃべりや居眠り、携帯電話など授業以外のことを一切しないで、授業に集中すること。これらのものごとの学び方は、社会に出て非常に役に立ちます。

Q：学校での生活や教科の勉強はすべて役に立つのですね。ところで、社会に出て必要な能力とはどのようなものだとお考えですか。

A：3つありますとしたいのですが、私の考えでは、社会に出て必要な能力は5つあります。一つ一つ御説明いたしますから、しっかり「理解」して下さいね。

まず第1は、「自律的に活動する能力」です。自分の行動は自分で律(りっ)する、コントロールすることのできる能力です。

(1)そのためには、高い志(こころざし)をもつことが大切です。「高い志」をもち、その「志」を継続しようと考えると、自分自身の行動をコントロールすることができるからです。

(2)また、社会のルールを知ること大切です。法律で禁じられている犯罪行為や相手に損害を与えるような不法行為は、避けることが大切です。そのためには、何が国家刑罰権の発動の原因となる犯罪なのか、何が損害賠償の原因となる不法行為なのかをよく勉強して知ることが大切です。もっと言えば、自分はどのような法律上の権利と義務をもっているのかをよく勉強して知ることが、「自律的に活動する能力」を身に付けるためには必要です。

(3)自分になされたら悲しいことは、他人にもしないことも大切です。相手の感情に配慮した生き方をすることができることも、「自律的に活動する能力」かと私は考えます。

(4)自分を大切にすると同じように、自分以外の他人の人間の尊厳(そんげん)を大切にしたい生き方を身に付けることが、この「自律的に活動する能力」の中で最も大切かと私は考えます。

(5)現代日本は、「超高齢化時代」です。日本は、世界でも1、2を争うほどの「長寿社会」です。平均寿命の世界一長い、つまり世界一長生きできる国です。「幸福とは何か」「何が幸せか」と問われれば、「長生きできること」「この世の中に長く生きることができること」と世界中の人々が夢見てきました。その意味で、日本に住む人々は世界で最も幸せ、幸福といえます。

私は、これからの世界一の長寿社会日本では、自分の行動は自分でコントロールする「自律的に活動する能力」を身に付けて、「いつまでも若々しく生きる」ことを目指すことが大切かと考えます。

Q：2つ目は何ですか。

A：「多様な集団で交流する能力」です。

(1)現代は、また、「グローバル化」の時代でもあります。世界中の「人」や「もの」、「お金」が激しく交流し合う時代です。言葉(ことば)、文化や歴史、宗教、価値観(何を大切なものと考えてるか)が自分自身のものと全く異なった人々・集団の中で交流することのできる能力が、今日ほど求められる時代はありません。

(2)最も大切なのは、「寛容(かんよう)」な心と私は考えます。「寛容」とは、「寛大(かんだい)」つまり心の広くゆるやかなこと。おおやかなことで、「よく人をゆるし、受け入れること、咎(とが)めだてしないこと」と、「広辞苑(こうじえん)」という辞書にあります。

「異端的な少数意見発表の自由を認め、そうした意見の人を差別待遇しないこと」という意味も、「寛容」にはあります。(「広辞苑」による)

*このように、自分たちと同じ言葉や歴史、文化の背景をもった集団の中に、その背景の異なる人が入ってきた場合にも、「寛容」な心で交流する能力が大切です。

(3)また、逆に、自分一人が言語を異にし、歴史や文化の背景も全く異にした集団に入った場合にも、「寛容」な心で交流する能力が求められます。

(4)コミュニケーションの基本的態度として、相手があるがままの姿、存在で認めること、認めたことを相手に伝えることが大切かと私は考えます。自分自身と同じように大切な存在として、尊厳をもって接する上で、「あるがままの姿、存在」で認めることほど大切なことはないと考えます。

(5)もちろん、相手の使う言語や世界の共通語である「英語」によるコミュニケーション能力を高めたほうがよいことは言うまでもありません。ただ、最も大切なことは、「尊厳」をもって接すること、「相手があるがままの姿、存在で認めること、認めたことを相手に伝えること」であると私は確信します。

「戦争は猜疑(さいぎ)心(人をそねみうたがう心)から生ずる。心の中に平和の砦(とりで)を築こう」というユネスコ(UNESCO 国際連合教育科学文化コミュニケーション機構)の精神は尊いものだと考えます。

Q：3つ目は何ですか。

A：「知識や情報、技術などの道具を相互作用的に用いる能力」です。

(1)現代は、先ほどお話したように、知識が基盤となった社会「知識基盤社会」(英語で Knowledge Based Society、ナレッジ・ベイスト・ソサイアティといいます)です。

(2)小学校、中学校、高校、大学、短期大学、専門学校、大学院などで学び自分のものとして身に付けた知識や、新聞、TV、インターネットなどから得られた情報と、様々な技術を上手に組み合わせる使いこなす能力が求められます。

(3)皆様は、中学校の3年生ですので、小学校・中学校で学んだ内容を、高校入試の勉強を通してしっかり身に付けることをおすすめします。高校や大学、短期大学、専門学校に大半の方が進学なさると思いますので、高校での勉強にも今やっている受験勉強と同じ熱心さで取り組み、しっ

かりと身に付けてから、高校卒業後上の学校に進学することをおすすめします。高校時代にほとんど勉強せず遊びほうけたり、生活の必要もないのにバイトばかりして高校卒業後上の学校に進学しても、学力不足では勉強に追いついていけません。しっかりと勉強して下さいね。

Q：4つ目は何ですか。

A：「学び方を学ぶ能力」です。英語でLearning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン)といいます。

(1)どのようにしたら、一度うんなるほどと「理解」したことを自分のものとして身に付けることができるのかについての能力です。

私の考えは、先にもお話したとおり、学校の授業で、まずは「うんなるほど」と「理解」すること。先生のお話を徹底的にノートにメモし続けること。ことばの意味を知るために「辞書」で調べること、その意味を「ノート」に「メモ」し続けることも大切です。

(2)次に、一度「うん、なるほど」と十分「理解」した内容について、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の「3大練習」でテキストやノートのスミからスミまでを確実に身に付けること。

*十分に「理解」していない内容について「3大練習」することも、全く何もしないよりは少しは効果があるかもしれないという考えもあります。しかし、「3大練習」をするのは、十分に「理解」した内容のほうがよいと私は考えます。

(3)第3は、学んだことを世の中で使いこなせることです。

Q：5つ目は何ですか。

A：「読書をする能力」です。本を読むことのできる能力です。

(1)世の中には様々な本が存在します。毎日のように、新しい本が出版されています。無数に存在する本の中で、教科書に載っている本や学校・図書館にあるような評価の高い本を、学校の先生、図書館司書の先生、御家族、よく勉強している方々の意見を十分に聞きながら選択(せんたく)すべきです。

本ならどのような本を読んでもよいということはありません。例えば、爆弾のつくり方を本で読んで、爆弾をつくって人や物を害してはならないと私は考えます。本を読むにも、「自律的に活動する能力」が求められます。

(2)本のページを飛ばし飛ばし読む人がいますが、せっかくお選びになった本はじっくりと腰を落ち着けて読むべきと私は考えます。気に入った本に出合ったら、2度、3度、できれば5～6度と、少し間を空けながら読むことをおすすめします。1回目に気付かなかった著者のものの見方が、2回目、3回目に少しずつわかってきます。4、5回目には、著者はなぜこのようなことを書いているのだろうとわかりかけることもあります。

(3)本を読んで、著者の目を通してまずはものごとを考えてみる。次に、自分はそのような見方についてどう感じ、思うのかを考えてみる。本を深く読むことにより、熟慮、熟考、省察、自分自身を振り返る能力が身に付いてくると私は考えます。

(4)本を読むことの中に、「新聞を読んで考える能力」も入れていただきたいと私は希望します。日本のように、毎朝、毎夕、雨の日も、台風の日も、雪の日も、大雪の日も、各家庭や職場に確実に、極めて質の高い新聞が配達される国は、世界でも数少ないと私は思います。日本の新聞は、

誇るべき日本の文化の一つとすら私には思えます。そのような新聞を、毎日一面からじっくりとなめるように読み、ものごとを批判的に考える能力も身に付けることをおすすめします。

「小学生は 20 分、中学生は 40 分、高校生以上は 1 時間以上、一面から新聞を読んで批判的に考える能力を身に付けよう」と、私は強くおすすめします。

ものごとを批判的に見る能力、つまり自分の力で考える力を身に付けることは大切です。

例えば、「振り込め詐欺」の事件は毎日のように新聞で詳しく報道されていますが、被害を受ける方が次から次に現れます。悪いのは犯人グループであることは当然ですが、新聞をよく読んでいる人は振り込め詐欺グループから電話があっても「これはおかしい」と批判的に考えることができますので、被害にあわずに済んでいると思われれます。

新聞に書いてあることは、各新聞社が見た社会で起きているものごとの考え方を示したものに過ぎません。ものの見方の一つに過ぎません。ですから、同じ新聞を一生読み続けることもよいのですが、時には図書館などで、いつも読んでいた新聞と違う新聞にも目を通すと、世の中にはいろいろなものの見方があるのだなあということがわかります。いくつかの新聞を読み比べることで、一つのことにも、いろいろな見方があることを学ぶのも面白いと私は考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)皆様は今、東京都の墨田区というところにお住まいです。墨田区は、大江戸博物館もあり、江戸文化の中心地ともいえます。墨田タワーも着工になり、新しい日本の顔にもなるところです。墨田区の素晴らしさを是非一つでもよいですから、皆様なりに見つけて下さい。文花中学校の素晴らしさ、3年生のこのクラスの素晴らしさ、一人ひとりのお友達の素晴らしさ、先生方の素晴らしさも、是非卒業までに見つけて下さいね。東京は素晴らしい都市です。東京の素晴らしさも是非見つけて下さい。日本の素晴らしさ、日本人の素晴らしさも是非見つけて下さい。外国に行ったら、その国の素晴らしさを自分なりに見つけましょう。素晴らしさを見つけるのは大切な能力です。

(2)それから、御家族の素晴らしさも自分の力で見つけましょう。そして、自分自身の素晴らしさを見つけて下さい。素晴らしさ、よいところを自分の力で発見して、それを思い切り自己責任、自助努力で伸ばすこと。これが今、中学生に望まれていることだと考えます。

(3)最後に、私の育った足利市在住の書家相田みつを先生のことばを送り、今日のお話を終わります。「一生勉強、一生青春」です。一生勉強し続け、いつまでも若々しく生きてまいりましょう。

経済団体の一つに、経済同友会という団体があります。私は、栃木県経済同友会、群馬県経済同友会とともに東京の経済同友会に入っております(茨城県には経済同友会がありませんので、茨城県経営者協会に入らせていただいております)。東京の経済同友会に、各学校から出張授業の要請があると、総合学習や道徳の時間などに講義をさせていただいております。この文章は、10月20日の授業で説明を加えながら読み上げたものです。

最近の出張授業の資料は、開倫塾のホームページの林明夫のコーナーにあります。是非、御覧下さい。